

第9回朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故調査委員会要旨

開催日時 平成15年12月21日(日) 13:00～19:00

出席者

委員 丸山委員長、上之蘭委員、清宮委員、長井委員、森谷委員

事務局 事故調査班、振興課長、万代島再開発室長ほか

(株)長大

1 内容

- (1) 連絡デッキ崩壊メカニズム要旨(案)について
- (2) 報告書(案)について
- (3) 第3者の検討に対する検証について
- (4) R27上弦材破断部の目視調査結果について
- (5) 残存デッキの復旧とアトリウム前・入江側デッキの対応について

2 質疑

委員長 今日の資料でおおよその今までの流れをもう一回再整理して、委員会が終わった後に記者会見で委員会全体の報告あるいは今までの活動の成果の報告をしようと思えます。今日の委員会としては、今まで我々が調べてきたものをもう一回全部見直すこと等を進めていきたい。

事務局 朱鷺メッセの連絡デッキ崩壊メカニズム要旨、報告書(案)について説明。

長大 第3者の検討に対する検証について説明。

委員 この資料は、委員会が他の者と議論するためのものではなく、自分たちの考え方の整理のために使う。

事務局 R27上弦材の破断部調査結果について説明。R27の川側の上部フランジは、やや斜め下向きの引張負荷により、全体的曲げ変形後、母材部で破断した。下部フランジは、圧縮負荷によりその後、上部フランジ破断による急激な引っ張り負荷を受けて破断に至った。入江側の上部フランジも、斜め下向きの引っ張り負荷によって、全体が曲げ変形後ということで、川側の上部フランジと同じ。下部フランジも、圧縮負荷によって座屈変形を受けて、フランジ面が川側に傾いた変形している。破断面の目視観察状況で、川側の上部フランジせん断型の破面、引っ張り負荷による延性破壊です。川側の下部フランジは幅の約半分にブローホールが認められた。破面入江側に脆性破壊と思われる、やや平坦な破面が見られる。入江側の上部フランジの幅の半分以上にブローホールが見られた。破面入江側に脆性破壊と思われる、やや平坦な破面が見られる。なお、平坦部中央にも一部ブローホールが見られる。入江側の下部フランジは引っ張り負荷による延性破壊です。溶接欠陥の状況は、ブローホール以外無いです。

また、現場に残った部材を切り出して、電子顕微鏡で観察した結果を、年明け早々に報告する。

長大 残存デッキの復旧とアトリウム前・入江側デッキの対応について説明。

委員 残存デッキは落下した影響で、変形や床版のずれ、ひび割れが出ている。定着部もひび割れがでている。

委員 残存デッキは多額の費用と時間をかけて補修して、心配しながら使っていくよりは全部直した方が良い。

委員 アトリウム前・入江側デッキの方は、ジャッキダウンによる損傷がなく、スパンも落下したデッキに比べて短いから、定着部を補強する方法を考える。

委員 補強に関して、長大からの提案以外にも委員で検討することとする。

事務局 報告書の取りまとめについて、1月16日までにもう1回議論する必要があると思う。

委員長 年内に1回、委員会としてではなく議論を整理する打合せを行う。12月29日に行う。